榛名神社社報

発行日　平成二十九年七月十五日
発行所　沼田市榛名町二八五一
電話〇二七八㉒二六五五
http://harunamori.org
発行人　金子浩隆

榛名神社由緒記

御祭神

埴山姫命（はにやまひめのみこと）（生命守護・五穀豊穣の神）
倭建命（やまとたけるのみこと）（開運・土地守護の神）
菅原道真命（すがわらのみちざねのみこと）（学問守護・災難厄除の神）
建御名方命（たけみなかたのみこと）（産業守護・健康長寿の神）

摂社・末社

大国主命（おおくにぬしのみこと）（商売繁盛・良縁結び・病気平癒・交通安全の神）
琴平宮・熊野社・稲荷社・産泰社・五柱社
厳島社・加茂社　面美（めめよし）様

元縣社・利根沼田総鎮守

沼田氏、真田氏、本多氏、黒田氏、土岐氏と代々の城主の崇敬を受け、その由縁の品々が今も保存されている。特に本殿は享禄二年（１５２９）沼田顕泰の建立、元和元年（１６１５）真田信之により改築され、豪壮華麗な桃山文化を今に伝える。

社頭講話

「祇園祭と沼田まつり」

【ＦＭ・ＯＺＥ　金子安平　平成十一年
沼田まつり当日放送より抜粋】

こんにちは。私なりの沼田まつりのお話しをしてみたいと思うんです。沼田まつりというのは祇園祭です。はじめは須賀神社のお祭りとして祇園祭があったんだけれども、いろんな理由で明治から、須賀・榛名両神社の夏祭りが沼田の祇園なんです。

で、祇園祭というのは、京都の四条通にある祇園町の八坂神社（御祭神は素戔嗚尊様）のお祭りで、素戔嗚尊様をお祀りする地方の神社のお祭りを全部、京都のまねをして祇園祭と呼んだんです。で、沼田では祇園の上へ「お」という敬語をつけて「お祇園祭」といったんですが、これが詰まって「おぎょん」となったんです。なぜ、榛名神社が祇園祭に参加したかというと、昔の総氏神というのは榛名神社だけだったんです。それが明治五年の時に中町の人々から、上之町、馬喰町、中町、坊新田、下之町、鍛冶町の六ヶ町を須賀神社に分け、残りの倉内、材木町、原町、高橋場、柳町、榛名町はそのまま榛名神社の氏子にして、その後、倉内が東西に、原町が東原、西原、上原、桜町に榛名町が榛名、清水、薄根に分かれて、現在の十二ヶ町となりました。須賀神社と分かれた時に、須賀神社の六ヶ町は、「榛名神社の氏子ではなくなったけれども、普請の時には、必ず負担をします」という約束をして、約束通りにその後、よく協力をしてくれたんです。そこで榛名神社の氏子は、須賀神社の天王様が六ヶ町だけのお祭りだけじゃ面白くねえと、じゃあ、うちの方の六ヶ町を加わろうというので、明治三十年ころから十二ヶ町こぞってお祭りをして、これを「おぎょん」と呼んだわけなんです。

終戦後、沼田市は市になり、合併もして、おぎょんではなく、沼田まつりの方が、みんなが参加できるだろうというので、おぎょんという名前を一時やめて、沼田まつりというふうになったんです。

昔の祇園祭は懐かしいことがあるんですよ。8月3日の初日に当時の警察前に両社の神輿が集まって、当番の方から先に渡御、須賀神社が当番の時には鍛冶町から、榛名神社が当番の時には柳町から回りだすんです。そうして両社の御神輿が仲良く並んで沼田じゅう練り歩いたんです。そして、須賀神社の区域を回るときには榛名神社が、榛名神社の区域を回るときには須賀神社の御神輿が先に立って仲良く回ったもんです。こういういろいろの麗しいやり方があったんだけど、沼田まつりになった時には、そういうようなことはいろいろ無くなったんです。

それから、まんどっていうのは万の灯火って書くんだ。たくさんのろうそく、灯りをつけて神様に奉納するというのがまんどなんですから、一番先に須賀神社の御神輿、榛名神社の御神輿に奉納してもらわなきゃならねえ。それが今、そういうことはなくなってお宮なんかお参りに来ないんだ、まんどでなくなくなっちゃんだ。だからそれは屋台なんだ。あるいは山車なんだ。でも、ぬまたでは屋台ともいわないし、山車ともいわないでまんどと呼んだんです。まんどというのは、たくさんの灯かりをつけて神様に奉納するという意味なんだ。だから、ぜひこれからは各町でまんどができたならば、灯かりをつけて、須賀神社の御仮屋、榛名神社の御仮屋に、一つぜひ、参拝をしてもらいたいなぁ、奉納してもらいたいなぁなんていうふうに思っております。　こういう伝統はぜひ、沼田まつりの中で残していってほしいなあ、なんていうふうに考えております。以上で私の昔話を終わります。

・・・・・・・・・・・・

（以上、思ひでのことどもより）

この放送の翌年頃から、はじめは氏子区域のまんど、そして次第に増え、昨年には須賀神社のまんどもすべて参拝をしてくれるようになりました。縣社會（榛名神社氏子区域のまんど）の奉迎もあり、おぎょんの伝統は、形を変えて残されてきています。

まんどは山車でも屋台でもなく、あくまでもまんど。まんどの参拝の時の謝礼にろうそくを渡すという風習の復活を、故須田清七氏が話しておられたことをおもいだします。

平成二十九年八月三・四・五日

◇祇園祭執行について◇

左記の通り、祇園祭についての日程等をご案内申し上げます。

本年度当番町　高橋場町

一、日程

八月三日㈭		
午前七時二十分	神璽奉遷・神輿発幸祭	榛名神社
午前八時	渡御　大鳥居からは車→ 薄根町→清水町→榛名町→西倉内町 →東倉内町→材木町→西原新町→ 東原新町	
午後一時頃	上原町→桜町→高橋場町→柳町	
午後三時	柳町祭典事務所着	
午後三時三十分	出発式　奉仕団により柳町を出発	
午後四時頃	縣社会の山車による奉迎・修祓	
午後六時	仮宮着御祭	仮宮
八月四日㈮		
午後五時	恒例大祭	仮宮
八月五日㈯		
午後四時二十分	仮宮発御祭	仮宮
午後五時	還御（奉仕団による）	
午後八時	須賀神社神輿との競演	市役所前広場
午後十時	宮入り・本殿還御祭	榛名神社

一、本年度仮宮　材木町　めがねの板垣様駐車場